

講義コード	515104702	
講義名	地域福祉活動実践II	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	通年	
基準単位数	1	
時間	0.00	
代表曜日		
代表時限		
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
専任教員	青木 章彦	指定なし
専任教員	教務委員会 (短大)	指定なし

授業の概要

地域福祉に関連する活動への参画やボランティア活動の実績を単位として認定する。

授業の方法

①プレゼンテーションの方法

ICTを活用して、ボランティア活動の情報を提示する。

②授業形態

学生自身がボランティア活動に取り組み、活動報告書を作成して提出する。

③アクティブラーニング

学生自身が主体的にボランティア活動に取り組む。

④課題に対するフィードバックの方法

活動報告書提出後に、ICTを活用してコメントをフィードバックする。

授業計画

1 事前指導 — 情報提供、コーディネーション、指導 (随時)

短大ボランティアセンターから情報提供を受けた地域福祉活動 (ボランティアを含む) の中から自主的にテーマを選択 (または受託) する過程と、選択後に短大ボランティアセンター等から行われる活動の意義・内容についての指導をもって事前指導とする。個人として得た依頼や情報から活動を行おうとする場合にも、短大ボランティアセンターもしくは当科目担当者に事前報告の上で指導を受けるものとする。

サークルとして参加する活動については、主催者との打合せやサークル内での諸準備および顧問教員の承認と、短大事務局への活動届出をもって事前指導に相当するものとする。

2 活動実践

地域福祉活動の実践 (運営や参加)

3 報告書の提出

指定の書式により報告書を作成し、当科目担当教員に提出する。複数人数や団体で活動を行った場合でも各個人がそれぞれに報告書を作成することとする。なお、活動内容により別途の報告を指示することがある。

授業の到達目標及びテーマ

地域での福祉活動を通して幼児教育や福祉の現場がもつニーズや課題を実践的に学ぶことを目標とする。活動を通し自発性・公益性・先駆性・コミュニケーション能力を身につけ、保育士資格や幼稚園教諭免許状を活かした社会貢献をするための基盤をつくる。

到達目標については、学習成果における④人間性と協働性を重視する。

この授業は、幼児教育科のディプロマ・ポリシーの「7.他者と協調・協働して行動できる。また、目標の実現のためにリーダーシップを発揮できる。」、「8.地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる。」、「10.積極的にボランティア活動に取り組むことができる。」を達成するための科目である。

授業計画表

授業時間外の学修

本学での講義やサークル活動、新聞、ニュースなどを通して得た広範囲の地域活動情報から、その意義や自身の関心について整理してみること。

実務経験の有無

ディプロマポリシーとの関連

①幼児教育者観	②知識・技能	③実践力と実務能力	④人間性と協調性
			◎

ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
理解度	授業内容を100%理解しており、授業内容を超えた自主的な学修が行えていると認められる	授業内容をほぼ95%程度理解しており、自主的な学修も少し行えていると認められる	授業内容の理解はほぼ75%程度であることが認められる	授業内容の理解は70%以下と判断できるため、レポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている
課題解決能力	他からの支援を受けずに独自の能力で課題を解くことができるとともに、解法が定まらない他者に的確なアドバイスができる	基本的に他からの支援を受けずに独自の能力で課題を解くことができる	参考資料を参考にしたり他からの支援を少し受けながら自身の能力で課題を解くことができる	参考資料を参考にしたり他からの支援を受けたとしてもなかなか自身の能力で課題を解くことが難しいので、できるだけ一緒に課題解決ができるよう支援している
調査する力 (予習も含む)	自ら進んで予習範囲を越えて調べるとともに、それを他者に説明することができる	定められた予習範囲について自分の力で調べることができる	定められた予習範囲について調べてはいるが、その理解にはあいまいな点が多く、不十分な部分がある	定められた予習範囲について調べられない。もしくは内容が不十分である
レポート力 (復習も含む)	テーマについて、授業で紹介した方法、もしくはそれに類する独自の手法を使った分析が十分になされている	テーマについて、授業で紹介した方法で分析が十分になされている	テーマについて、授業で紹介した方法で分析がなされている	テーマについての分析がなされていない

成績評価法 (表形式)

	評価基準	備考
定期試験		
小テスト等		
成果発表		
授業への貢献度		
レポート	100%	活動報告書をもとに評価する。
その他		

課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題 (レポート等) について	模擬授業、プレゼン、発言等について
その都度解説、講評する	その都度解説、講評する	その都度解説、講評する

ICTを活用した双方向型授業の内容

ム	ビデオ会議システム
用	チャット メール等の活用

アクティブラーニングの割合

総授業時間数の60～100%程度のアクティブラーニングである

アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
小テストや授業内レポートの活用	フィールドワーク	授業後レポート

参考書

『幸せを届けるボランティア、不幸を招くボランティア』 田中 優 河出書房新社 ￥1,260

SDGsとの関連

を に	3. すべての人に健康と福祉 4. 質の高い教育をみんな
--------	---------------------------------

特記事項等

- ①実務経験のある教員
特になし
- ②ナンバリング
SRE2301, SRE2401
- ③その他の特記事項
特になし

学生へのメッセージ

積極的にボランティア活動に取り組みましょう！

研究室（訪問先等）

中央研究棟 2階 224研究室
火・水・木・金が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111 (代)

授業用E-mail

aoki@sakushin-u.ac.jp

成績評価法

活動報告書をもとに、事前の計画に対する活動の達成度等から実活動時間を認定し、42時間以上（宿泊をともなう場合は6日以上）の地域福祉活動の実践をもって単位を認定する。

なお、複数の活動時間を合算することができる。